

令和8年度 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議
「第1回介護予防・活躍推進に関する会議」、「第1回認知症施策推進に関する会議」
(合同開催)会議録

1 開催日時

令和8年7月16日(木) 18時30分～20時30分

2 開催場所

北九州市役所 3階 大集会室

3 出席者等

(1)構成員(20名/24名)

【介護予防・活躍推進に関する会議】

眞崎構成員、古賀構成員、石田構成員、有山構成員、宮本構成員、永野構成員、
住吉構成員、安仲構成員、木庭構成員、小畑構成員、岡田構成員

【認知症施策推進に関する会議】

今村構成員、吉澤構成員、安田構成員、鴨崎構成員、渡辺構成員、藤永構成員、
前田構成員、野村構成員、野村構成員

(2)事務局

長寿社会対策推進室長、長寿社会対策推進次長、地域共生社会推進部長、
認知症支援・介護予防担当課長、地域包括ケア担当課長、介護保険課長、
地域福祉推進課長、地域リハビリテーション推進課長

4 議事の概要

- (1) 次期「北九州市しあわせ長寿プラン」の策定について
- (2) 介護予防・活躍推進に関する会議での検討事項について
- (3) 認知症施策推進に関する会議での検討事項について

5 会議経過(発言内容)

事務局 議事(1)、(2)について、資料に沿って説明

代 表 議題(1)、(2)について、事務局から説明がございました。課題解決のために必要な取組など、今回策定をする計画に反映させていくという観点から、ご意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

構成員 就労している人の割合が、令和4年から令和7年で増えていない実情を見ると、就労者を増やすための施策はありますが、就労を続けるための施策を推進する必要があると思います。例えば、企業側への高齢者の特性の理解や高齢労働者への支援を働きかける必要があると思います。高齢者の特性として、記憶力の問題や転倒、併存疾病を持っている方もいらっしゃるのです、そのような高齢者に対する理解を企業側に説明する機会を作る必要があると思います。例えば、こんな風に気温が上がってくると、高齢者の熱中症リスクは高くなります。このように様々な課題が高齢者の特性にあると思いますので、働く入口と働き続けられる環境の整備を同時に行う必要があると思います。

また、健診の受診率を確認すると、まだ集計中とはありますが、あまり上がっていないような印象があります。さらに、非正規雇用の高齢者の割合が多いのであれば、企業側で健康診断を受ける機会があるのかどうか気になるところです。

高齢者の受診率を上げる必要があるのであれば、企業にも高齢者の特性を理解していただくということも施策に入れてもいいのかなと思います。

事務局 保健福祉局ではないのですが、産業経済局で、今年度取り組む施策があり、その中で企業向けの働きかけといった取組により、高齢者が企業で働けるように働きかけるとのことでしたので、今日頂いたご意見を、また伝えていきます。

構成員 ぜひ検討していただければと思います。福岡県理学療法士協会で、企業に入って、就労環境や環境整備の指導を行っています。例えば、転倒しやすい部分や腰痛が発生しやすい部分について指導に入っています。工場の中に入って、実際に高齢者が働いている現状で、リスクがあるところについてアドバイスをしたり、その責任者の皆様に対して、どのようなアプローチが必要なのかということもお話を差し上げたりしていますので、ぜひご検討をお願いしたいと考えております。

代 表 ありがとうございます。加えて、事務局どうぞ。

事務局 健診受診率についてもご意見をいただいたかと思います。本当に構成員がおっしゃる通りだなと思っています。やはり、突然倒れるというのは、健診を未受診で、自分の体の状態をご存じないという方がいらっしゃるのではないかと、高血圧などがあっても、放置しておられるのではないかと考えております。

この一体的実施は、74歳までは、協会健保だったり、それから国保だったりというようなところでの健診になりまして75歳から後期高齢者へという橋渡しになります。

この橋渡しがうまくいくように、健診を続けて受けていただけるように、引き続き頑張っていけないといけないと考えてございます。

代 表 ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

構成員 私は今、北九州市に住んで、1年半になります。

最初にこちらに来た時、何かボランティアをしたいなと思ったのですが、ネットで全然ヒットしないということがありました。

まったく北九州市に住んだことがなかったのですが、他に趣味のクラブとか、サークルのようなものがあるのかなと思ったのですが、なかなかヒットしなくて、今1年半経ちますので、少しずつ知り合いもできてきて、そこで人づてに聞いたり、散歩が好きなので、歩いている時に飛び込んで聞いてみたりして、いくつか経験することができました。

しかし、なかなかヒットしないというところがありまして、市政だよりや市の公式ラインで市の広報を読んでいるのですが、いろいろ流れてくるので、引っかかることがあったり、なかったり、というところですよ。人に聞いても、「誰々さんが何かしていたよ」ということを聞くのですが、なかなかわからないというところがあって、新たにやってきた人には、ちょっと難しい世界だなということがありました。

過去一年間に地域活動等に参加したことがある人の割合が26%ということで、かなり上がっていると思いますし、また、スポーツ関係のグループやクラブの参加者の割合も増加したということがあるのですが、私の感覚では、なかなかそれでも入りにくい、情報が伝わってこない、一元化されていないと思います。偶然、社協や市民センターで、1つ1つあたっていないと、なかなか見つからないという感覚があります。ですから、市や区で、何か1つ窓口を作って、そこに行ったら、ボランティア等の情報やリンク先、ここに連絡したらありますよというような窓口の一元化があったらすごく助かるなと個人的に思っております。そこをもう少し推進して頂けたらいいのかなと思います。

代 表 ありがとうございます。非常によくわかりました。

なるほど、というふうに感じたところでございます。

活動参加ということに障壁といいますか、そういったことがありますとなかなか出られないと。それに対する施策といいますか、方法論をどうするかということだろうと思いますけど、事務局の方向かございますか。

事務局 ご指摘ありがとうございます。

市の事業として、生きがい活動ステーションというボランティア情報等の提供とマ

ツチングを行う事業を行っていますが、そこでも情報が届いてないということの指摘を頂き、ホームページの改修を行い、仕事に関する情報等、今まで取り込んでいなかったものも提供することとしました。

ただそこで完成ということではなくて、これからも皆様からのご指摘もいただきながら、より良いものにしていきたいと思っています。

さらにケイケン・タカラプロジェクトも皆さんにケイケンバンクに登録していただいて、そこにコーディネーター等を配置して、皆さんの「活躍したい」という思いを、地域ニーズにつなげるような、マッチングをやっていききたいと思っていますので、今後も皆さんのご意見いただきながら、少しでも良い形になるようにやっていきたいと思っています。今後ともご意見いただければと思います。ありがとうございます。

代 表 ありがとうございます。

それに関連してちょっと私の方からもいいですか。

参加することが良いとする、という反面、参加しなくてもいいよ、という形で、例えば、役割を持つことや参加することが負担になるということがあります。だから、居場所が欲しいというような気持ちを持った市民の方もおいでになると思うんですけど、何かそういった施策を、入れてもらうのも1つなのかなと思います。

何か活躍して参加してみんなでいようという形ばかりではなく、参加せずとも何か居場所を作るとか、何か具体的にはないのですが、そういったことをしていくこともすなわち、じゃない方というところでどうするか、というのも1つの展開なのかなと思います。

役割を持つことが負担になるというケースはちょっとあるのかなと思いますので、意見として申し上げたいと思います。ご検討ください。

その他ございませんか。

構成員 丁寧な説明、いつもありがとうございます。

今回、「ケイケンマイスター」というところすごく興味深く見させていただきました。先ほど構成員も言われていましたけれども、今回多分ボランティアの、というところにはなってくると思うのですが、例えばこういう経験がある方、こういう企業さんがこういうのを求めているというマッチングができると、また何かちょっと幅広い展開ができるのではないかと思います。

私も今、デイサービスで働いているのですが、年をとっても働きたいという方、結構多いのですが、重介護ができなくなったり、少しずつ苦手な業務が出てきたりとか、配慮しないといけない業務っていうのがどうしても出てきます。

なので、その方が、経験を生かしながら、やりやすいお仕事を仕立てるなど、工夫をさせていただくことも多いですので、今後、今から始まっていくと思いますので、

そういうマッチングみたいなものも、できてくるといいなと思ったのと、募集期間がちょっと限定的になっているので、今後この募集期間が随時募集できるような体制になってくると、また裾野が広がっていくのかなと感じました。

代 表 ありがとうございます。事務局何かコメントございますか。

事務局 ありがとうございます。

1点目の就労についてですが、ケイケン・タカラプロジェクトについては、就労を否定するものではないですが、就労につながる支援については、産業経済局などで、かなり力を入れて行っていますので、ケイケン・タカラプロジェクトは、どちらかというとなら就労よりも地域で何か貢献したいという思いにこたえられるような形の仕組みを作りたいと考えています。

募集ですが、今年はケイケンマイスターとして現在活躍している方を募集します。そのケイケンマイスターの皆さんをロールモデルとして活躍の姿を広く周知することで、私も活躍しようという思いになっていただこうということで考えています。

更に、今後はケイケンバンクを立ち上げて、「自分の経験や好きを何らか生かしたい」、「でも、どう生かしていいかわからない」という方に登録していただこうと考えており、そちらは随時登録ができる仕組みにしていきたいと思っております。

その仕組みをつくる上で、今年募集するマイスターの方々から、これまでの経験や、地域との繋がり方等のご意見を伺いながら、仕組みづくりを考えていきたいと思っております。

産業経済局が高齢者の就労支援を進めていくこととなっていますので、今のご意見も、また伝えていきたいと思っております。

代 表 ありがとうございます。その他ございますか。

構成員 受診率の話ですが、特定健診や後期高齢者健診の受診を皆さんに受けてもらうPR活動は、かなりやっていると思うのですが、特定健診は、市民センター等で、集団健診というのがあって、かなり増えていると思いますが、後期高齢者については、病院でしか受けられませんよね。私たちが高齢者の方にPRしたときに、「私は持病を持っていて、定期的に病院に通っているから受ける必要がない」という返事がほとんどです。

私はそのような方に対しては、「健診はすべての調査をするので、受けた方がいいですよ」という話をしています。

病院でも、先生方が後期高齢者の方に、「健診を受けていますか？」や、そのようなPRをしてもらえれば、もうちょっと増えるのでは、という気がしています。

代 表 ありがとうございました。ご意見でございます。

構成員 かかりつけ医をお持ちの方でも今おっしゃった通りです。

後期高齢者健診によって日頃しないような項目もございますので、そういうのをより広めていきたいと思っております。

行政の方にも色々な機会をいただきまして、例えば介護申請とか、皆さん、高齢者の方が行かれることがございますが、そういうところでもパンフレットを差し上げるとか、そういうことを何か工夫して、皆さんで盛り上げていただければと思います。

それからもう1点、やはり高齢者の方、骨粗鬆症、骨折を機会に、健康を害して社会から遠ざかってしまうということが非常に多くございます。

ですから、後期高齢者健診、皆さん郵送で高齢者の方、4月から届いていらっしゃるんですけど、例えば骨粗鬆症健診も何かそれに同封していただいて、受けるような取り組みをやっていただけたらと思います。後期高齢者健診は、内科的な健診が主ですので、あとやはり今回大きな課題は骨粗鬆症でございますので、そういうところも併せてお願いしたいと思っております。

構成員 確か前は後期高齢者の方は、持病を持っていらっしゃる方は健診を受けられなかったかもしれないのですが、今は受けられます。

何年前かは忘れましたが、制度が変わりましたので受けられると思います。

それで3月31日までとかに受けなければいけないのですが、例えば詳しい検査項目を一回して、その半年後にやるとか、3ヶ月後に1回の方だったら、その3ヶ月後の健診を、後期高齢者健診を使うとかそういう感じで、ぜひ活用していただけたらいいのでは、と思っております。やる項目が少しずつ違いますので、上手く制度を生かしていただけたらいいのではないかなと思います。

昔は、受けられなかったもので、受けられないという人がいたら、看護師でも説明して、今は受けられますよということは言っていると思います。

構成員 歯科も、高齢者歯科健診がございます。やはり、この資料を見るとかかりつけ歯科医を持っていらっしゃる方は増えているのですが、実は、健診を受けていらっしゃる方は、減っています。要するに、かかりつけ医の歯科医院で、入れ歯の調整とか、治療を受けているけれども、実際の高齢者健診を受けている方というのは少ない。その高齢者の健診の中に色々な、入れ歯とか、歯周病以外に、口腔機能とか、そういったものが含まれておりまして、咀嚼機能の低下リスクがある人の割合という質問項目がございます。

これは、もう国が決めている項目です。これ実は質問内容が、半年前に比べて硬いものが、食べられなくなっていないかという質問で、要するに、現在硬いものが食べられていますかという話ではなく、客観的な評価ではなくて、主観的な評価ですので、1年前からずっと柔らかいものを食べている方は、ここには来ないので、このようにちょっとデータとして、咀嚼能力が改善されている方が多いのに、低栄養のリスクがある人の割合が増えている、おそらくこういった状況になっていると思いますので、ぜひ、歯科も、機能評価も中に含まれていますので、後期高齢者の歯科健診も利用していただきたいと思っております。

代 表 ありがとうございます。構成員よろしく願いいたします。

構成員 質問ですが、高齢者健診の中に聴力検査も入っているのですか。

聴力が落ちると、認知症の発症率が高くなると言われていますが、高齢者の方に聴力が落ちている方がたくさんいらっしゃると思います。それに自分で気づいていない方もたくさんいて、なかなか受診する機会がないような感じがするのですが、ぜひ、聴力検査も高齢者健診の中に入れて欲しいなと思っております。

事務局 今の聴力検査に関しまして、耳鼻科学会の方が、聴力検査を健診と一緒に、という環境を確保するのが難しいというところで、やはり病院に気軽に行って欲しいというところです。耳鼻科学会も方針として出しているのですが、今北九州市としては、聞こえのチェックリストを色々なところでお配りして、これに該当したら、ぜひ、耳鼻科に早めにかかっただいて、耳の状況を確認いただき、適切な、次のステップに行っていただくような取組をさせていただいております。

耳垢だけで、聞こえづらくなられている方などもいらっしゃるとう耳鼻科の先生からは、お伺いしているところです。

代 表 ありがとうございます。

4 ページ 5 ページに関しましてございますか。次、よろしいですか。

また後程、説明があるかと思いますが、もしご質問、ご意見ございましたらペーパーが用意されていますのでそちらの方でお願いしたいと思います。

代 表 続いてもう 1 つの 6 ページ 7 ページの施策の方向性の 2「生涯を通じた健康づくり介護予防」、こちらにつきましてのご意見をお願いしたいと思います。

何かございませんか。

代 表 北九州市はすごく健康づくり推進員さんが活発に活動されておられるので、素

晴らしいなと思っております。

今回の成果指標、達成目標でも、かなり増加しているという状況から、こういう方々の活動を、もう少し見える化はできないかなと思っております。

先ほどの活躍の情報が発信されたりというところなど、先日も学生と一緒に実習である地区に参加させていただきました。そこで活動をされていることを健康づくり推進員さんが、翌週には写真を、すばらしいチラシのような形にされて、この前の活動はこうでしたねというようなことも、されておられたりして、各校区取り組まれている活動を何とか見える化しながら、そういう形が地域の核となって、広がっていくことが、色々な社会参加にも繋がるのかなと思っておりますので、期待しております。どうぞよろしくお願いいたしますと思います。

構成員 ご説明いただいてありがとうございます。

低栄養のリスクがある人の割合が増えているのは、ちょっと問題なのかなと思っていて、低栄養のリスクがある人をスクリーニングするのに何か具体的なツールを使ってらっしゃると思うのですが、何を使っているか、教えていただいてもよろしいでしょうか。

事務局 今ご質問いただいた内容が、昨年行った、北九州市の介護予防日常生活圏域ニーズ調査において、調べさせていただきました。低栄養が疑われる高齢者という定義については、今回は、いわゆるBMIですね。体重÷身長²というBMIが 18.5 以下であるという方々について、低栄養が疑われる高齢者ということで、調査をさせていただきます。

これについては、国の手引きに基づいて、手引きのとおり、設問という形で皆さんにお伺いしたと、いうことになっています。

構成員 ありがとうございます。

どうしても低栄養といったら筋肉量であるとか、もちろん食生活であればタンパク質量がどうか、とかいうようなところがちょっと気になるところではあるので、あわせてご検討いただければと思います。

代 表 ありがとうございます。

先ほどの食生活改善のことで、構成員何かございますか。

構成員 食生活改善推進員は訪問事業をしています。

低栄養の方や痩せ気味の方を予防しようということで、頑張っています。その成果もここに表れているのではないかなと思っております。

構成員 健康づくり推進員は、各区で、PR用の写真集をパネル 2 枚、用意しています。

1 度、市のロビーに 2 年か 3 年前に、7 区全部並べさせてもらったことがあるのですが、各区のイベントで、例えば、門司区であれば門司港の何かのイベントのときに、門司区のそのパネルを 2 枚、どこかにPRのために、出していただければと思います。各区のイベント等にPR用のパネル写真が 2 枚あるということで、展示させていただければ、非常にありがたいと思います。

代 表 ありがとうございます。ぜひご検討いただければと思います。
その他、いかがでしょうか。

構成員 個別訪問などのお話もありましたが、私たちが訪問して一番思うのは、出たがらない人が色々なリスクを抱えていることが、多くあります。通いの場やふれあい昼食会など、健康づくり推進員さんがいろんなところに出ていくと、情報を得られるし、友達同士で、栄養に関してお話があったりしていいかなと思います。

しかし、出て行かない人を、どうしたらいいのかと思っていますが、訪問時に声かけをすると、買い物が面倒くさいとか、作るのが面倒くさいとか色々あって、給食サービス等をお伝えするのですが、情報を得にくい方がすごくいるなど、さっき、ボランティアの話もそうだったのですが、そこはすごくネックになっていると思います。

あとは、グループだとか地域とか、団体とかが、みんな思い思いになっていて、先ほどこちょっと行くだけでも良い場所があったらいいのではないかという意見がありました。外に出にくい人や人と交わるのが何となく嫌な人がいて、だけれども、1 人で行ってもなんとなくそこにいられる場所があるとか、人とあまり交わらなくてもできるっていうところがあれば、そこが出ていく一歩になるのかなあと考えています。そういうところできていったらいいなというのと、そういう人に対応できる人が少しでも地域の中に増えていったらいいな、と思います。

サロンも地域でいろいろしているのですが、結構、町内会長さんがしているところがあって、町内会長さんが変わると、急に変わることがあります。たとえば、町内会長さんが、いろんな講座に行き、自分が運動をみんなとできるよという人がいると、そこが盛んになってきたり、声かけや巻き込むことが上手な人が増えていくと、そこが、色々な人が通える場所になっていくので、そういう人材をどういうふう育成していくのかとか、誘っていける、私たち民生委員もそういうところを身に付けていかなければと思います。そういう人材をどのようにして、育成していくのかというのも、1 つ施策の中に入れていただけたらいいかなと思っています。

代 表 ありがとうございます。ご意見としてぜひご検討いただければと思います。

では次の分野に参りたいと思います。認知症施策推進の方に参ります。

目標の 2 の施策の方向性の 2-4 の、認知症施策推進、そして目標の 3 の施策の方向性 3 の、安全・安心に暮らし続けられる環境づくりに関する各施策の現在の取り組みにつきまして、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

事務局 議事(1)、(3)について、資料に沿って説明

代 表 議事(1)、(3)について、事務局から説明がございました。3つに分けてご質問やご意見をいただきたいと思いますと考えております。まずは、2、施策の方向性の2、認知症にやさしいまちづくりについてです。

この分野につきまして、ご説明も含めて、ご質問ご意見ございましたら、受け賜りたいと思います。いかがでしょうか。

構成員 質問ですが、10 ページの、認知症の理解の推進と共生の推進というところで、両方ともポジティブな結果が出ていますが、認知症と聞いて家族に迷惑をかけそうで心配である人の割合、そして認知症になっても自宅で生活続けられるか、心配である人の割合が両方とも下がっているということで、結果としては良いと思うのですが、それがどうしてこの 5 年間で減少になったのかなと、何か施策があったのか、それとも何か理由があるのか、お聞きしたいです。

事務局 直接的に、これが決定打というのはなかなか分析が難しいところでございますが、やはり今、ご紹介させていただいたようなところで、認知症サポーターの養成研修などは、色々なところに出かけておりまして、認知症になっても色々な制度がございますとか、こういう声掛けをしてくださいとか、そういったところを少しずつ進めているようなところになろうかと思います。

またやはり、医療機関の方でも、先生方からお声かけていただいたり、認知症の相談窓口なども一生懸命やっていたりしているようなところも、総合的なところかなと思っております。

代 表 ありがとうございます。

取組の結果というところが少しずつ出てきているということですね。

他にございますか。

構成員 認知症カフェの数が 29 ヶ所から 31 ヶ所にすごく増えていて、目標は 50 か所ですけれどもかなり増えてはいるのですが、我々も、八幡の方で、市立病院の前で、

カフェをしています。現在 18 名のカフェマイスターさんがボランティアで来てくださって、火曜日から金曜日で営業しておりまして、1 日 4 人体制でまわしてきているのですが、この 31ヶ所でそれぞれ何かこう、個性が違うカフェ形式になっているのであれば、そういった情報の発信は何かされているのですか。

事務局 ご質問ありがとうございます。

認知症カフェ、それぞれおっしゃっているように、カラーをもって活動されておられます。介護事業所さんがその場を活用してされているところもあれば、個人の方がご自宅を開放されていらっしゃるなど、いろいろカラーがあると思っています。

情報発信についてですが、北九州市のホームページに、特色や開催日を掲載させていただいております。

ただ、何かリーフレットの的なもので、一覧になっているものを幅広く配布しているかという、その辺がまだできていないのかなと認識しておりますので、ホームページを使ってなのか、また別の媒体を使ってなのか、広報については検討していきたいと思います。

構成員 ありがとうございます。

多分今は、ネットにアクセスできない方も結構いらっしゃるので、できればそういった方にも配慮してほしいと思います。

代 表 ありがとうございます。

そうですね、アクセス格差という言葉聞きますね。

その他ございませんでしょうか。

構成員 会員さんがほとんど中心の認知症カフェと、ご本人が参加されるサロンというものをしているのですが、やっぱりご本人は 1 人でこられる方は少ないというか、ご夫婦の方が、連れてこられることも多いのですが、一人暮らしで、もの忘れがあって、だんだん来られなくなったという方は、やっぱり同じメンバーの方が、前の日にラインをしたり電話をしたり、その日にライン電話をし、どこかで待ち合わせして、そしてやっと駅に来ることができるという状況で、ご本人が来られるのに同行者がいたりとか、何らかの支援がないと、とても難しいと思います。

なので、支援できるような、ボランティアのマッチングみたいな話もありましたけど、そういうご本人を、一緒に同行して連れて来てくださるようなボランティアの方の募集とかあったらいいかなと思いました。

それと、認知症カフェのいろんなところのお話を聞いて、少し勉強させていただ

いたのですが、200 円、皆さんからいただいています、無料でやっているところもあるというような話も聞きました。それなりの負担が、それぞれの認知症カフェを開催している事業団体にかかっているのではないかと思います。参加者から、全部いただいて、それでトントンというようなところは少ないのではと思って、何らかの支援を、北九州市で、期限を決めてでもしていただけると、認知症カフェがもっと増えるのではないかと思います。よろしくお願いします。

代 表 ありがとうございます。ご意見でございますけども何かコメントございますか。

事務局 貴重なご意見ありがとうございます。

認知症カフェは、皆さんのいろんな努力で運営していただいているなというのは、本当に認識しているところでございます。

また研究をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

構成員 高齢の方や認知症がある方が、手術をするということが多くなってきました。

そうすると家族への負担も大きいですし、病院スタッフはプロなので大丈夫ですが、やはり本人さんの不安が大きいということで、京都だと、認知症ボランティアといって、1 日 10 分でも同じ人が顔を出して、ちょっと話を聞くというようなボランティアがあるという発表を学会とかで聞いたことがあります。8 ページになりますが、ボランティアのマッチングを進めていただいている部分に、少し入っていただけるようにしていただければと思います。

代 表 ありがとうございます。その他ありますか。

構成員 オレンジカフェをやっていますが、ミニカフェ・オレンジを小倉南図書館の方で行っており、アシスト21でもさせていただいているのですが、だんだん、高齢化によりボランティアさんが少なくなってきました。

一緒にやってきた方達が、もう 10 年以上になって、皆さん、年齢とともに体が動かなくなったり、通ってくることができなくなったりということで、なかなか新しい 60 代 70 代の方は、増えない状況です。

そのため、だんだんボランティアさんが先細りしており、今後何とかしないといけないなというふうに思います。

公園に行くと、皆さん、グランドゴルフやゲートボールをしている方、たくさんいらっしゃいますが、長く働いてきたからでしょうね、あまりボランティア精神がないと感じております

地域でボランティアをしようという方たちがどんどん減ってきているような状況

ですが、金銭的なものもありますので、カフェオレンジもボランティアだけの精神じゃできません。

認知症カフェを普及して欲しいのであれば、市の方も、何か考えていただきたいなと思います。

代 表 ご意見ご要望でございました。ご検討いただければと思います。
人材確保の問題も非常に重大なことだと思います。

構成員 先ほどのボランティアの確保のところですが、私たちも高齢になって、いきなりボランティアを始めると言っても、特に男性の方は、ボランティア活動にすぐに入って来られない、というところがあるので、企業で、例えばボランティア休暇とか、そういったものをお持ちの企業さんであれば、私たちもボランティアセンターの方がそういった企業とか、商工会議所さんとか、連合さんとかにもお声掛けをさせていただいて、働きながらでも、ボランティア休暇を使って、そういった地域活動に参加していただくとか、そういうこともやっていますし、最近は大学生とか、高校生にも、地域の福祉教育も兼ねた活動に参加したいかということで、大学と連携したボランティア活動の周知もやっていますので、こういった高齢者だけがボランティアをするのではなくて、現役や若い世代のときから、そういったことに関わっていただけるような、そんな連携を、今後もっと増やしていきたいなということは思っております。

代 表 ありがとうございます。では次の分野に参りたいと思います。
14 ページのところ、ケアラーのサポートについてです。
ご意見ご質問ございませんでしょうか。

代 表 私から良いですか。ケアラーに関しまして孤独孤立と重層というところがたくさん出てくるのかなと思います。地域包括の部会でもこの話をしたかもしれませんが、若年層というヤングケアラーの部分やダブルケアラーなど、まだまだ制度や施策的には、弱いところがあるのかなと感じます。

この部分を何かうまく、それと組み合わせた部分で、計画の中に組み入れていただくと、ちょっと珍しいというわけではないですが、幅が広がるのかなと思うところがございます。

ぜひそういったことも検討いただければと思いますけども、何かそういったことを検討される余地はございますか。今の段階で結構でございます。

事務局 地域包括支援の会議の中でも、重層のお話がありました。

令和 7 年度から、複合化する課題に、どう対応していくかということで、重層的支援体制整備事業を実施しております。

これもまだまだ、始まったばかりで課題も多くございますので、今この会議とはまた別に、地域福祉計画という、また、この分野別計画がございますけども、その中で、具体的な議論を進めているところでございます。

幅広くご意見をお伺いして、ぜひ計画の中で、反映できる部分については、積極的に反映していきたいと思っております。

具体的なお答えできなくて申し訳ありません。

代 表 ありがとうございます。

地域福祉計画もいろいろ展開があると思いますので、ぜひ取り組みをお願いしたいところです。

その他、何かございませんでしょうか。

構成員 ヤングケアラーの方は、どの世代の方が多いのですか。

事務局 資料を持っておりませんので、後日お伝えします。

代 表 ありがとうございます。

では、その他ございませんか。

構成員 家族の介護について負担であるとする人の割合は、令和 4 年度の 40.3%から令和 7 年度で 43.2%になっています。これは、実態調査報告書の 75 ページがその基になっていると思うのですが、介護をしている人の年齢構成で 60 歳以上が半分以上、入っているかなあという感じで、属性だとか、いろんなデータもおそらくその辺の方々が中心で取ったデータになっているとしたら、これはお願いになるかもしれませんが、もう少し低い 50 代、40 代の介護者のところや、年齢別で分けて何か出していただいたら、もうちょっと違うものが発見できてくるのではないかなと思います。そういったことはできますか。

事務局 もう一度質問の内容をお願いします。

構成員 このデータ、40%とか 43%の人しか負担であると考えている人はいないという感じになっていますが、それが、結局年齢構成が 60 歳以上の方で半分以上を占めているところがあるので、結果的に 50 代以下の方々の意見はあまり入ってこないのではないかなと感じたのでお伺いしました。

事務局 年齢構成についてですが、この調査だと、在宅高齢者の方に対する介護している方に意見をお伺いしていますので、こういう年齢構成になっているという状況です。夫婦で老々介護状態の方等が多いということで、こういう結果になっているかと我々は認識しております。

構成員 これが 50 代以下になると、もう少し何か困っている方が増えるなど、内容も変わってくるのかなと、思ったのですが。

代表 75 ページの年齢のところ、50 代を抽出することは可能ですか。

事務局 それは可能です。年齢層ごとにどのぐらいの割合かというのは、細かく抽出することは可能です。

代表 それが見えてくれば、ということですね。

年齢層によって多少変わってくる色々な因子があると思いますので、分析するときには、その部分で年齢構成であったり、在宅であったり色々な部分がございますので、ただ確かに若者の意見などは若い世代がどう考えているかということが反映されてないというのは、課題ではないかということでもあります。

次回また年齢別の分析等々につきまして、ご検討いただければと思います。他に何かございませんか。

構成員 今のところ、家族の介護について負担であると。

この負担であるというのが精神的な負担なのか、経済的な負担なのかそれとも体力的なものなのかというのはちょっと、想像でしかできませんが、それを分けた、もう少し、理解できるような内容はあるのでしょうか。

事務局 今皆さんお手持ちの冊子の 80 ページを見ていただければと思います。

同じ在宅高齢者の介護者に聞いた調査項目ですけども、80 ページのところの(2-1)介護をする上で困っている内容ということで、1 が身体的な負担感があるということで、複数回答ですが、64%、精神的な負担があるというのが 63%、経済的な負担感があるというのが 39%と出ております。

事務局 先ほどの介護者の負担のところ、若い世代の方の負担をどうとらえているかということにつきましては、同じこの調査の 70 ページのところに、子育てと介護というダブルケアという観点での質問をしています。こちらの方で在宅高齢者の方の

介護をしている中で、子育てをしているかという、当然、先ほどのような年齢構成なので、少ないのですが、そういった子育てをしながら介護されている方のご負担感や、就労の状況を聞いておりまして、先ほどの質問だけではなく、子育てとのダブルの介護負担を、どう考えているかといったことも併せまして、そういう若い方でも、負担感というところは掴んでいきたいと考えております。

代 表 ありがとうございます。

非常に貴重なご意見をいただきましたのでこれから展開が広がっていくだろうと思うし、年齢別と、困った別といったことのクロスがされていくと思いますので、ぜひ今後ご検討いただければと思います。

ありがとうございます。

代 表 最後です。19 ページの目標 3 のところです。

安全・安心に暮らし続けられる環境づくりについてございます。

ご意見ございましたらお願いいたします。

代 表 私から少し、デジタル化についての年齢別等々に関しましてやっぱり負担が大きいかないという方もおいでになります。

その対策につきましてはもちろん、ペーパーで配布するということでもありますけども、新しくなにか考え方が展開されるのか、今の色々な方法で、データだけではなく、ペーパーだけではなくということもありますけども、何かそういったこともまた、色々地域性も考えて、ご検討いただければなと思っているところでございます。

何かその辺ございますか。デジタルに関しまして、代替手段はどうするかとかいう意見です。

事務局 代替手段ということではないですが、やはり高齢者の方も、現在、スマホを使っていらっしゃる方もかなり増えてこられておりまして、いろんな情報をデジタルで取得するっていうことも、高齢者の方もかなりいろいろ進んできていますので、そういった方を増やす取り組みといったことも現在行っておりまして、年長者大学など、スマホやパソコンに関する講座などもしておりますし、また、市で、スマホの操作のことを、各区役所の方で巡回して出張を行い、使い方の操作といった講座などを開催しながら、デジタル自体を使える方を増やすといった取り組みをやっております。

ただ、どうしてもデジタルを使えないという方もいますので、そういった方にやはり情報がちゃんと届くようなことを、併せて考えていきたいと思っています。

代 表 ありがとうございます。その他でございますか。

構成員 ご説明いろいろありがとうございました。

今北九州市のホームページを見ていますが、例えばホームページに載っています、とはいえどもそのページに行くまでにかなりアクセスが必要でして、どこを押せばどこに行くのかが、正直わかりにくい部分もあるのかなと思います。

検索までしている方はいいと思うのですが、時々こういう検索サイトでよく見るのが、キャラクターが横に出てきて、AI検索みたいな形でキーワードを入れるとそれに関連するページがパッと上がってくるとか、AIが適切かどうかはちょっと置いて、そういう検索しやすい、そして正確性が一応担保できるような、検索ツールをホームページ上に持つというのは1つ提案というか、ありなのかなと思います。

なので、検索を一生懸命して、どんどんページを進んでいくと結局、全然わからないページにいつてしまい、最後着地できずに、サイトを閉じてしまうということなどが起きてしまう可能性があるのであれば、何かキャラクターみたいなものがずっと動いていて、簡単にキーワード入れると、パッと災害に関することが出たり運動に関することが出たりというのも、ありなのかなとちょっと感じたので、発言しました。

代 表 ありがとうございます。ご意見でございました。

構成員 北九州市のラインがあると思いますが、最近高齢者の方に登録しているか聞いたら、割としているみたいな感じです。

あれはLINEで情報がぱっと上がってくるのですが、もうちょっと必要な情報をどんどん上げていただくと、高齢者が、それを目にする機会が増えるのではと思います。

登録しませんか、とQRコードを見せても、意外とやってみようかなという人が増えているし、今、市民センターでも結構スマホカフェみたいなものをサロンなどでしているところも多いので、やっぱりそこはどんどん推進していったほしいと思います。

この前、どなたかが、結構スマホが認知症の初期はお守りになって、今色々な機能がついていて、道に迷いそうになったら音がするという機能があるらしいです。この辺はちょっとでも進めていってもいいのではないかなと思います。

市民センターの館長さんとかに聞いても、今、グーグルフォームで講座の申し込みがあるけど、結構80代の方でもグーグルフォームで回答したりとか、アンケートもグーグルフォームで回答したりする高齢者が増えているらしいです。そこはやっぱりしっかり進めていくと高齢者が情報を得やすくなるのではないかなと思います。

す。

代 表 概ねでてきたかなと思います。

まだまだご意見あるかと思いますが後程また説明があると思いますけれども、ペーパーで提出等々もできるということでございますので、どしどしお寄せいただきたいと思っております。

総括をお願いいたします。

代 表 たくさんの説明とこれからの北九州市の取り組みの期待感が、膨らむような、皆様からの現状の確認等もできて、こういった場がすごく大事なあというのを改めて思いました。

私も気づかなかった、地域の中で、色々なところに出てこれない方々をどう支援していくか。私も広島にいるときに、ソーシャルキャピタルという、地域の繋がりを推進してくれるような人材づくりをやった経験があるのですが、やはり地域全体がそういう雰囲気、自分もその中に何とか参画できるものはないかという、色々な選択ができる、そういった、北九州市の取り組みがこれからすごく期待できるのではないかと、皆様のお力でできるのではないかと思いました。

こういった会議の場で、皆様と推進できるような取組をこれからも続けていきたいなと改めて思いました。

本日はありがとうございました。

代 表 ありがとうございました。最後に何かございませんか。

それでは意見交換、これで終了させてもらいたいと思います。

事務局の方にお返ししたいと思います。

事務局 活発なご意見をいただき、ありがとうございました。

今年度の本会議については、介護予防・活躍推進、認知症施策推進を一体的に検討する観点から、全3回、すべて合同開催を予定しております。

次回第2回目は、10月中旬から下旬ごろに、第3回目は1月中旬～下旬ごろに開催させていただく予定です。

次回2回目の日程調整については、改めてご連絡させていただきますので、よろしくをお願いします。

これをもちまして、令和8年度北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議「介護予防・活躍推進に関する会議」及び「認知症施策推進に関する会議」を閉会いたします。

本日はありがとうございました。